

Radixの会農産部会



生産者通信

(有)エコ・ライス新潟
定価 100円(送料込)



24年の歴史に幕、東北ブロック最後の研修会を開催

Radixの会解散と新組織についての報告と説明

1月10日山形県置賜郡川西町のフアーマーズ赤とんぼ様を会場として、Radixの会(旧・らでいっしゅぼーや)の環境保全型生産者の集まり(が)2月1日に解散する最後の東北ブロックの研修会でした。2018年5月に、オイシックス・大地とらでいっしゅぼーやが経営統合を発表し、7月1日に3社の統合が実施されました。オイシックス、大地を守る会、らでいっしゅぼーやという全く異質な競合の宅配業者が統合するとは夢にも思わない現実に生産者に衝撃が走りました。それから徐々に3社の融合が進む中で、おのこの生産者組織を統合に向けて、解散と

新組織発足の経緯について事務局から説明がありました。

○ふるさと納税の影響
農産担当者からは、「糖質ダイエットブーム」「ふるさと納税」の影響が直撃して米の販売が大幅に落ち込んでいきましたが、糖質ダイエットブームの終息、ふるさと納税の返礼額引き下げなどで、米販売の底は打ったとの報告がありました。販売数量のピーク時の数量に戻すことは容易ではありませんが、守りの販売から販促策の見直しなどで攻めの米の販売に転換することでした。

○土壌診断を実施
勉強会では、片倉コープアグリ野口勝憲農学博士から「土壌・肥料の基礎知識『土づくり』について講演がありました。

有機肥料の肥料効果、土づくりの重要性と土壌診断による肥料設計など実践的な指導



作物に必要なチッソの40~70%は地力チッソから

施肥

土に含まれているチッソ 40~70%

肥料のチッソ 30~60%

イネのN吸収量は平均12Kg/10a
イネが吸収する土壌窒素は5~10Kg/10a(平均7Kg)



(野口先生資料より)

がありました。新潟県山田錦協議会の圃場で収量の多い圃場、少ない圃場

の土壌化学診断、及び、土壌生物性診断を野口先生に依頼することにしました。

米質の環境要因と管理

- 気温：**
出穂期~25日、成熟期の高温は乳白米、背白米、基白米多
出穂期~25日の気温25~26℃以上で発生多
コシヒカリの粘りは登熟期間の平均気温25℃で最高
- 高温障害：**
気温34~35℃以上で高温障害、1℃上昇すると16%不稔
40℃以上で全て不稔
- 水管理：**
出穂後根の活力低下 → 間断、酸素供給 → 稔実良
落水早めるほど米質低下、出穂後30日間は落水しない
- 胴割米：**
籾含水率23%以下で発生、20%以下で多発、降雨で促進

良質米のための管理ポイント

- 食味決定要因：**乳白米、未熟米など登熟阻害粒の発生、
デンプンの充実などアミロース含量だけではない
- 食味に影響する肥料成分：**
最大はN、リン酸、マグネシウムは+、カリは-
- 窒素追肥：**出穂20日前までに
- 倒伏：**稈の下位節間N4(上から5番目)、N3(上から4番目)
伸長最盛期に多N
N4伸長：出穂前29日目から、26日最盛期、20日目に終了
N3伸長：出穂前23日目から、18日最盛期、13日目に終期
- 穂長：**穂首分化期は出穂前32日目
籾数：穎花分化期は出穂前20日目
出穂前30日頃に、リン酸系マグネシウム MgOで1.5kg